

オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(48) —ドボルザークの交響曲第9番新世界—

1. 始めに

前報(47)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Proなどを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも述べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン MG 1112

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団

ESOTERIC ESLP-10002

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

イシュトバン・ケルテス指揮ウィーンフィル

Victor VIC-3009

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

ズデニック・コシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー

Angel AA-8174

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

コンスタンチン・シルベストリ指揮フランス国立放送管弦楽団

ハイレゾファイル音源は上記と同一の曲を選択します。

ステレオサウンド SSHRB-002

アントン・ドボルザーク 交響曲第9番新世界

イシュトバン・ケルテス指揮ウィーンフィル

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

ドボルザークの交響曲第9番新世界

クラウディオ・アバド指揮ベルリンフィル

ドボルザークの交響曲第9番新世界

ミルガ・グラジニーテ・ティーラ指揮グシュタード音楽祭管弦楽団

ドボルザークの交響曲第9番新世界

ラハフ・シャニ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

ハイレゾファイル音源

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのジュリーニ指揮シカゴ交響楽団盤は、1977年の録音でシカゴ交響楽団らしいエネルギーッシュな演奏が炸裂し、他方、2楽章などは牧歌的な表情も描きます。ことさらに木管のソロを浮かびだすようなく、オーケストラ全体の調和を重んじる演出です。

ケルテス指揮ウィーンフィル盤は、オリジナルの1961年録音のDECCA盤のマスターからのESTERICのリマスター盤です。以前にLONDON盤を借りて聴き比べしましたが、やはりオリジナルの濃密な表現には及びませんでした。今回、聴きなおしてもエッジが効きすぎて、上記のジュリーニ指揮シカゴ交響楽団盤や下記のコシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー盤のような表情の豊かさがありませんでした。

コシュラー指揮スロバキアフィルハーモニー盤は、1972年の録音ですが、音質はかなりよく、スロバキアフィルハーモニーの本拠地はプラハやウィーンに近いことから東欧のドボルザークの音楽の表情を的確にとらえています。

シルベストリ指揮フランス国立放送管弦楽団盤は、録音年代は不明で盤の痛みがあり、音質的にはよくありませんが、かなり前のめりの速さでフランスのオーケストラらしいにぎやかな演奏です。

ハイレゾファイル音源のケルテス指揮ウィーンフィルは、オリジナルのDECCA盤や上記のESTERIC盤のマスターテープから11.2MHzDSDに変換したものです。ハイレゾらしい緻密で解像度も高く、ケルテス指揮ウィーンフィルの濃密な演奏が再現され、上記のマスターが同じESTERICのリマスターANAログ盤を超えていきます。

STAGE+のアバド指揮ベルリンフィルの演奏は、イタリアのパレモのオペラ劇場でのベルリンフィルヨーロッパコンサートの演奏で、アバドの指揮はベルリンフィルを緻密で繊細によく歌わせる安定した演奏です。

STAGE+のティーラ指揮ベルリンフィルの演奏は、メニューインが創設したグシュタード音楽祭の演奏で、若い女性指揮者のティーラのしなやかな指揮で、比較的若い構成のオーケストラのメンバーが元気いっぱいに演奏しています。

ベルリンフィルデジタルコンサートのシャニ指揮ベルリンフィルの演奏は、放送ストリーミング情報【2026No.398】で報告しましたように若いシャニの切れのよい指揮に応えてベルリンフィルのエネルギーが炸裂しますし、ここでいうところでは、イングリッシュホルンやフルートやクラリネットが静かに歌います。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくっており、それぞれの収録環境や収録年代や指揮者の解釈やオーケストラの力量がよく分かります。

以上